



113棟の合掌造り民家が周辺環境とともに保存された白川村荻町合掌集落 (撮影／米山淳一)

至高の魅力にふさわしいテーマ理念と運営体制の構築

公益社団法人横浜歴史資産調査会会長 古賀 学

横浜歴史資産調査会は、中核としての歴史的建造物及び歴史的まちの保存活用とともに、日本鉄道保存協会及びシルクロード・ネットワークや各地の協働体と深く連携しています。これら協働体は、関係者一丸となった活発な活動を継続させていますが、今後さらなる前進的持続を図るためには様々なやるべき課題を有しているともいえます。

その一つが集客の魅力のあるテーマの掲揚、そしてもう一つはその実現のための運営体制の構築であるといえます。テーマというとテーマパークが思い浮かびます。1980(昭和55)年代中頃からバブル景気にのり雨後の筍のようにテーマパークが乱立し始めました。しかしその多くは2000年を前後して閉園や経営不振に陥りあえなく業態や経営主体を変えていきました。テーマパークとしての雄は東のディズニーリゾート、西のUSJでしょうか。これらが持続しているのは旺盛な資金力はもちろんですが、共に片やウォルトディズニー片や映像という明確な理念に基づくテーマがあり、それに則って運営されているということではないでしょうか。

テーマパークの元祖と言われているのは1965(昭和40)年に開設された“明治村”です。明治村の理念は“本物の価値を残す、伝える”として60を超える明治建築を移築し保存展示している野外博物館です。歴史的まちの保存と違うところは、域

内のすべてが完璧に1つのテーマにそって集約されていること、そして疑似はあっても本来の生活がないことです。日常生活がないこと、生活を排除することこそテーマパークの基本となっています。

世界遺産でもある白川郷・五箇山など歴史的まちや伝統的建造物群なども、ある特定の区域内ではありますがそこには生活があり生活に則った様々な施設や活動が行われています。だからこそ創造されたテーマパークとは異なった良さがあるともいえます。

横浜歴史資産調査会の責務は、地域固有の生活様式すなわち地域文化を軸として歴史的価値を有する様々な施設や資源を統括的・有機的に繋ぎ合わせるにより、さらなる地域の魅力向上を図ることにあります。テーマパークとは異なり一カ所に集めることは困難であるがゆえに、それと同等あるいはそれ以上の魅力を発揮するのに必要な強力な連携を構築するさらなる努力が必要とされています。

そのためには、横浜歴史資産調査会と関係者とのさらなる連携強化を図り、全土に点在する歴史的建造物、保存鉄道、絹関連事象など多様な至高の魅力に対する個別のそして横断的なテーマ理念を構築し、その実現のための強力な運営体制を構築していきたいと思います。

公益社団法人横浜歴史資産調査会 令和7年度事業計画

歴史的資産は、人々の生活と共に地域に息づき親しまれ豊かな景観をもたらしており、個性あふれるまちづくりのための貴重な資源となっています。

しかし、歴史的資産を将来にわたり保全していくことは容易なことではありません。歴史的景観形成に必要な歴史的建造物を失わないため、日頃から歴史的遺産の保全と活用に関する調査研究、取得・保存、修理・復原、維持・管理等の事業や、歴史的資産に関する人材育成及び普及啓発活動を実施する計画や提案等を実施いたします。

さらに、「歴史を生かしたまちづくり」を推進するためには、市民の理解や支援を得るとともに積極的に取り組むことができる人材を確保することが重要となっています。このため、「歴史を生かしたまちづくり」に関するセミナー、シンポジウム、見学会等を開催し、「歴史を生かしたまちづくり」を積極的に行います。

(常務理事 米山淳一)

(1) 調査事業

〈負担金事業〉

・横浜市との協定書に基づく建造物保全・活用計画関連調査

歴史的建造物を保全、活用するため、横浜市都市整備局との協定書に基づく調査事業として歴史的建造物保全活用計画関連の調査等を実施します。

この調査は、所有者へのヒアリング、歴史的建造物に関する文献調査、写真撮影、現地確認、関係図面の作成、地図へプロットする等により実施し、調査によって得られた知見を当公益社団の公益目的事業である「歴史を生かしたまちづくり」の内容検討に活用するとともに、具体的な歴史的建造物の保全・活用における方針の策定や横浜市登録、認定歴史的建造物、または、国登録有形文化財、重要文化財指定等に向けた課題を整理し、所見の作成等を行います。

また、野毛都橋商店街ビルの将来に亘る保存・活用・修理・管理計画調査を行います。



山手聖公会はモーガンの作品（横浜市認定歴史的建造物）



煉瓦造の門柱とアイアンワークが美しいモーガン邸の中門

〈自主事業〉

・建築家J.H.モーガン自邸の再建に向けた調査（藤沢市）

火災により焼失した建築家J.H.モーガンの自邸の再建を目的に事業を行って参りました。令和3年度に当公益社団に設置した「旧モーガン邸再建委員会」を中心として、NPO法人旧モーガン邸を守る会・藤沢市等と連携し、「復元再生調査報告書」（平成29年度実施）に基づいて再建に向けた具体的な再建、活用、管理のための調査等を継続して参りました。しかし、建設費の高騰、藤沢市との土地所有区分の関係など、事業の方向性を再調整することになりました。今年度は、復原ではなく、モーガンの自邸としての再建に向けた新たな取り組みに照準を合わせ、モーガン邸再建委員会やワーキング会議を引き続き開催します。

・横浜市内近代化遺産調査

約10年前に行った近代化遺産としての鉄道遺産調査は時間が経過し、その後の現状把握が行われていません。一昨年、鉄道開業150周年記念事業として文化庁の助成のもと、神奈川県内の鉄道遺産調査を行い現況を把握し、報告書を発行、配布、写真展の開催などを行っています。

今回は、その中から歴史、文化、技術的等に優れた対象を選び、将来にわたり保存、活用することを目的とした調査を行うのもであります。当公益社団の相談役 堀 勇良氏、専門委員 小野田 滋氏らを中心とした既存の鉄道遺産調査隊を強化し、実施いたします。



リベットと溶接を用いた我が国初の事例として貴重な瑞穂橋梁（神奈川区）

・山手地区西洋館などの保全対策調査

令和4年～5年にかけて山手地区西洋館の保存、活用のあらたな展開を模索する所有者、関係団体などにヒヤリングを行って来ました。

新たに令和5年度から都市デザイン室が歴史まちづくり法にもとづく事業等をおこなうことになりましたが、当公益団体は、独自に将来に亘る西洋館や周辺の歴史的資産の保存活用に向けてヒヤリングを行います。

*参考：開港5都市の函館市元町、末広町、神戸市北野地区、長崎市東山手、南山手地区は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。



山手の景観は居留地時代の面影を伝えている



住宅として息づく山手西洋館を後世に伝えたい

・「歴史を生かしたまちづくり相談室」関連の調査

◎伊藤美弓家住宅のアトリエ現況調査（神奈川県鶴見区馬場）

令和5年に相談室で対応し、水沼淑子（関東学院大学名誉教授・当公益団体専門委員）が所有者へのヒヤリングや現況調査を行っています。昭和30年代に既存の住宅に増設する形で建設された画家木下孝則氏のアトリエです。洒落たデザインの木造平屋であり、戦後建築としても重要。詳細な調査に向けて所有者との調整を行います。



画家・木下孝則氏のアトリエは昭和30年代の趣ある建築

◎稲荷山の生糸商の現況調査

（長野県千曲市稲荷山・重要伝統的建造物群保存地区）

稲荷山地区は、信州の絹文化の交流拠点としてまた、横浜と生糸交易で繁栄しました。現在でも約650mに及ぶ歴史的町並みには、かつての反物や生糸関連の土蔵造り商家が軒を連ね、当時の賑わいを偲ぶことができます。

地元の研究者と共に稲荷山と横浜の交易に関する調査を行い、絹産業がもたらした地域の経済、文化交流の証を解き明かします。また、絹文化を紹介する交流文化拠点整備の検討調査をいたします。



稲荷山の町並みは重伝建地区

◎横浜焼き・井上良斎窯場等の保全対策調査

（横浜市南区南永田）

近代横浜の陶磁器産業として眞葛焼きと並び発展したのが横浜焼きです。現在、登り窯や作業場、住居が当時のまま残る貴重な事例で、所有者により保存されています。当地は湧水が豊富で、その地形を利用した自然観察の場としても活用されています。将来にわたり、歴史的陶磁器生産の場と谷戸の自然地を併せ持った地域資産として保全する方策等を市民、行政、専門家、当公益団体が力を合わせて行います。



井上良斎窯場には珍しい登り窯が保存されている

(2) 保護事業

歴史的資産の調査結果に基づき、保護事業を行います。保全が必要とされる歴史的建造物等には支援体制を整えます。さらに、保護事業対象として位置付け、保存、活用を目的に取得、修理、管理等の取り組みを積極的に行います。

〈自主事業〉

・「野毛都橋商店街ビル」の保全・管理（横浜市中区野毛）

当公益社団の保護資産第1号である「野毛都橋商店街ビル」の保全・管理を行います。横浜市都市デザイン室と力を合わせ、将来にわたる保全・管理計画を策定いたします。

・「旧湘南電気鉄道瀬戸変電所」

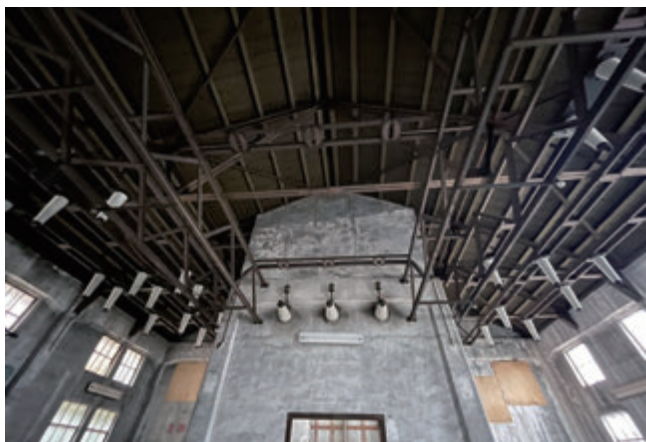
（現・京浜急行電鉄・横浜市金沢区瀬戸）

瀬戸変電所は、旧湘南電気鉄道時代の貴重な遺構です。平成26年から変電所に勤務していた方々へのヒヤリング調査を皮切りに平成29年度、30年度の耐震、地盤調査、令和2年度、令和3年度建物の耐震補強や修理計画、さらに令和3年度に行った事業化の検証を基に保存、活用、管理に関する実践的な調査を行ってきました。この結果、令和6年度に京浜急行電鉄から具体的な寄贈範囲が示されたことを受け、令和7年度は、変電所建物の寄贈を受けることを前提に将来にわたる保存、活用、管理計画を策定いたします。

なお、令和元年度に当公益社団が設置した「旧湘南電鉄瀬戸変電所保存活用委員会」（委員長後藤治・工学院大学教授・当公益社団理事）を引き続き開催します。



野毛のランドマークとして人気の都橋商店街ビル



瀬戸変電所内部は、現役当時を彷彿させる貴重な空間



モーガン邸復元予想図

・建築家J.H.モーガンの自邸（藤沢市）の 再建・保存・活用事業の推進

火災で焼損したJ.H.モーガンの自邸の復元再生調査報告書（平成29年度実施）に基づき、再建事業を推進します。公益財団法人日本ナショナルトラストから焼失した建物と敷地約2,000坪の内の約3分の1の土地の譲渡を受け、NPO法人旧モーガン邸を守る会、藤沢市、藤沢商工会議所等と力を合わせて再建と活用に向けた資金確保のための募金活動をより推進します。

また、この目的達成のための当公益社団が設けた再建委員会（委員長水沼淑子・関東学院大学名誉教授・当公益社団専門委員）を開催し、先進地の事例研究を行うとともに具体的な再建計画や活用、管理計画を作成します。併せて長年、管理、公開等を行っているNPO法人旧モーガン邸を守る会と敷地の3分の2を所有する藤沢市との連携を強化します。

・山田コレクション（歴史的車両群）車庫の建物と 土地の取得・維持・管理（北海道江別市）

通称：山田コレクションと呼ばれ、当公益社団法人が代表幹事団体を勤める日本鉄道保存協会が所有する北海道の炭鉱で活躍した歴史的蒸気機関車等15両（日本遺産「炭鉄港」の構成文化財）が保管されている車庫2棟（土地建物）所有の篤志家から当公益社団法人への寄贈の申し出を受け、これらの修理、維持、管理をおこないます。近い将来、地元江別市や市民団体と力を合わせて一般公開いたします。



山田コレクション保管庫は立派な木造トラス構造

(3) 普及啓発事業

〈負担金・受託事業〉

歴史的資産に関する専門家の育成やまちづくりに関する市民の理解を深めるために横浜市都市整備局からの負担金事業として、また公益財団法人横浜市緑の協会から、同財団が管理、公開する俣野別邸や山手西洋館他の活用アドバイス等に関する事業を受託事業として実施します。

・横浜市都市整備局からの協定書に基づく負担金事業

- ・「第47回歴史を生かしたまちづくりセミナー」を開催します。

テーマは、横浜根岸競馬場一等馬見所の横浜市歴史的建造物認定を記念して「J.H.モーガン建築の魅力」の予定。(令和7年9月28日開催予定)

- ・「横濱新聞」第40号を発行いたします

・公益財団法人横浜市緑の協会からの受託事業

- ・俣野別邸、旧伊藤博文金沢別邸の職員向け研修セミナーを実施します。
- ・俣野別邸、馬場花木園旧藤本家住宅で、市民向けの講座などを開催します。

〈自主事業〉

- ・コンサート in ヘリテージ「ピアノが案内する横浜の歴史とまち Vol.11」の開催

「横浜山手芸術祭」の一環としてピアノコンサートを手手西洋館で開催します。(令和8年1月31日予定)

- ・「シルクロード・ネットワーク協議会フォーラム2025・川越大会の開催支援

シルクロードネットワーク協議会の代表幹事団体として、シルク産業で横浜に繁栄をもたらした関東甲信越、東北各地等の市町村と連携して発足した同協議会。これまで関連市町村で絹文化の啓発や関連する歴史的建造物等の保全、活用をテーマに、NPO法人街・建築・文化再生集団(略称RAC)等と連携し、開催してきました。

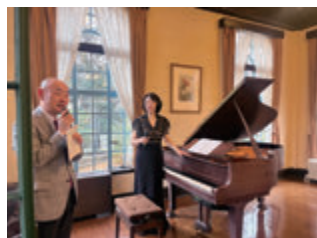
「シルクロード・ネットワークフォーラム2025・川越大会(総会、講演会、シンポジウム、見学会等)の支援をいたします。これまで横浜市、新庄市、福島市、鶴岡市、南砺市、神戸市、白川郷等で開催しました。(令和8年3月開催予定)

- ・「日本鉄道保存協会2025年七戸町大会」の開催支援

日本鉄道保存協会(1993設立)の代表幹事団体として、近代化遺産である鉄道遺産(歴史的車両、施設、構造物等)を保存している自治体、鉄道事業者、NPO等の団体等と連携して2025年度は、「南部縦貫レールバス愛好会」(青森県七戸



コンサートに先立ち挨拶する古賀会長



ピアニスト後藤泉さんとナビゲーター長谷川正英さんのコラボが人気



白川郷シルクフォーラムで田島家養蚕展示館を訪ねる



絹織物で繁栄した川越の町。立派な蔵造りが続く(重伝建)



2025年の全近大会は明治村で開催。当公益社団相談役の堀勇良氏の講演もある

町)で開催します。同協会の総会、講演会、シンポジウム、見学会等の開催を支援します。(令和7年10月4・5日開催予定)

- ・全国近代化遺産活用連絡協議会(文化庁)との連携

我が国の近代化に貢献した産業、交通、土木遺産の保存活用を目指して活動する同協議会と連携し、近代化遺産や鉄道遺産等の保存活用を推進。当公益社団は鉄道部会長。

(4) 会員事業

当公益社団の事業への継続的な支援を確保するために、ヨコハマヘリテージ・サポートクラブ会員の募集と併せて、幅広く会員ボランティアによる活動や見学会等を推進します。

〈自主事業〉

- ・会報誌『ヨコハマヘリテイジスタイル』を年4回発行します。
- ・ホームページを充実します。
- ・ヨコハマヘリテイジセミナーの開催 テーマ「J.H.モーガン建築の魅力」

(5) 「歴史を生かしたまちづくり相談室」の運営

横浜市内や神奈川県内等には多くの歴史的建造物等の歴史的資産が数多く存在しています。時代と共に取り壊される運命にある対象も年々増えています。しかし、これらの歴史的建造物は、一度壊してしまうと元には戻せません。また、歴史的建造物の老朽化、居住性の低下、修理費、固定資産税や相続税等などが障害となり、保全・活用を行いたくても出来ないで悩んでいる方が多くおられます。

そこで、様々な相談に対応し、瞬時に調査、保全の提案、修理、住まい手紹介、取得等の有効な手当を行うことが必要とされていることから、平成26年に「歴史を生かしたまちづくり相談室」を開設しました。この相談室は、将来にわたる「歴史を生かしたまちづくり」に大切な、歴史・文化資源を確保することを目的として運営に力を注いできました。速攻で現地に outward、相談に応えます。

「歴史を生かしたまちづくり相談室の動き」

「古い家に住んでいるが歴史文化的価値はあるのか」、「傷みが著しく、修理したいが大工さんを紹介して欲しい」ほか、平成26年(2014)に相談室を設けて以来、今日までさまざまな相談事を頂いた。しかし、なかなか実らない事ばかり。

印象的だったのは、「山手の西洋館133番館を売却したいので買い手を見つけて欲しい」と言う事例である。売却せずに免税団体である当公益社団に寄贈すれば保存可能とお願いしたが、あえなく、不動産屋物件になった。ところが、その広告を見た山本博士さん(当公益社団賛助会員)が保存のため大金を投じて取得し、修復を行い、山手西洋館133番館は奇跡的に保存されたのである。しかも、横浜市認定歴史的建造物になった。身近な理解者の成果として紹介したが、一度売却物件になると救えないのが現実である。以下に、近年の成功事例として2件の事例を紹介したい。(米山淳一)

1. 西教寺本堂(南区三春台)

昭和6年の鉄筋コンクリート造の寺院建築として貴重な存在。所有者や専属の建築技師などが横浜市民生涯学習課文化財係に市指定文化財、都市デザイン室に市認定歴史的建造物への相談に行ったが、鉄筋コンクリート造の建築物は文化財の対象にはならないと判断された。

その後、当公益社団に相談室にあり、理事の堀勇良(元文化庁主任調査官)や専門委員の大野敏(横浜国立大学教授)らが、3年間調査等に関わり、令和6年度に横浜市指定文化財になった。



▲横浜市指定文化財になった西教寺本堂

▶意匠を凝らした本堂内部



2. 旧松野家住宅主屋・旧松野家住宅表門及び塀(磯子区滝頭)

昭和5年頃の瓦葺き、木造平屋建ての近代和風住宅である。所有者が歴史的建造物として愛し、手入れを続けてこられたことで外観、内部ともに当時の姿を良くとどめている。

当公益社団専門委員の小沢朝江(東海大学教授)が、詳細な建物調査を行い、歴史文化的価値を充分に把握する事が出来た。所有者の将来に亘る保存活用のご意向もあり、文化庁に国登録有形文化財として申請し、令和6年度に国登録有形文化財となった。あわせて昭和7年頃建築の表門、塀も合せて登録された。



◀▲旧松野家住宅は建物と庭が一体となった美しい近代和風住宅



ご寄付のお願い

■旧モーガン邸再建のための寄付

旧モーガン邸の再建にあたり目標額1億円。現在、たくさんのご寄付を賜りつつあります。引き続き皆様のご寄付を心よりお願いいたします。個人5000円(一口)・団体/企業等100,000円(一口)一口から何口でもありがたくお受けいたします。ご寄付いただいたみなさまのお名前は、再建した建物室内に掲出させていただきます。

■歴史を生かしたまちづくりファンド

歴史的資産の保存活動推進のために「ファンド」を創設しています。おいくらからでもみなさまにご寄付をお願いしています。

●振込先: ゆうちょ銀行 口座番号: 00270-4-124271

●加入者名: 公益社団法人 横浜歴史資産調査会

※モーガン邸再建のためのご寄付には、お振込みの際、お手数ですが「モーガン邸寄付」と明記をお願いします。

※当公益社団法人へのご寄付は、特定公益増進法人のため税法上の優遇措置が適用されます。詳しくは事務局よりご説明させていただきます。

ご寄付をくださったみなさま、ありがとうございました。

●旧モーガン邸再建のための寄付

(2025.7.1 現在)

松尾隆史	10,000円	中川ちあき	5,000円	安川千秋	5,000円
山崎哲也	5,000円	奥水浩美	5,000円	小川文雄	5,000円
恵良隆二	5,000円	金木伸浩	10,000円	桑山直子	10,000円
徳田裕二	3,000円	木阪尚志	5,000円	石黒 充	10,000円
渡辺一男	10,000円	小林守利	5,000円		

●歴史を生かしたまちづくりファンド

NPO 横浜ロケーションコーディネイト	100,000円	NPO 横浜ロケーションコーディネイト	100,000円
NPO 横浜ロケーションコーディネイト	100,000円	(株)フルハウス	100,000円
ダーウィン(株)	100,000円	(有)ボリス・グラフィック・エンジニアリング	100,000円

『シルクロードでつなぐ街と人 白川郷合掌造りは絹遺産の宝庫』

シルクロード・ネットワーク協議会代表幹事団体
公益社団法人横浜歴史資産調査会
常務理事 米山淳一

開催報告

2024年シルク横浜大会でのリクエストにお応えし、2025年度は白川村で開催しました。残雪が残る春先に全国各地から30名を超える皆さんが集い交流を深めました。合掌造り民家は養蚕工場でもありました。一階は住居、二階が蚕室、三階は物置。三角屋根の合掌造りは豪雪のための様にも思えますが、このように使用されていたのです。お蚕さんは貴重な収入源でもありました。フォーラムや見学会を通じて白川郷の魅力を感じました。

●開催日時・場所

- ・ 場所／フォーラム：白川村役場会議室
見学会：白川郷荻町合掌造り集落
宿泊・情報交換会：白川郷の湯
- ・ 共催：公益社団法人横浜歴史資産調査会・NPO法人街・建築・文化再生集団 (RAC)
- ・ 後援：白川村

●実施プログラム

▶3月8日(土) フォーラム

- ・ 12:40～13:00 受付
- ・ 13:00～ 開会挨拶 米山淳一 (公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事)
中村 武 (NPO 法人 RAC 副理事長)
宮丸和之 (白川村教育長)
- ・ 13:15～基調講演『歴史的町並みと観光振興』
古賀 学 (当公益社団会長)
- ・ 14:00～開催地報告『白川郷合掌造り保存・重伝建・世界遺産への道』尾崎達也 (白川村教育委員会)
- ・ 14:30～各地からの報告・質疑応答 コーディネーター 米山淳一
新庄市商工観光課 加藤 明
日野市ふるさと文化財課 金野啓史、南砺市 中嶋勝彦
- ・ 16:30 閉会

▶3月9日(日) 見学会

- ・ 9:40～荻町城址展望台
国重文 和田家、集落内散策、田島家養蚕展示館
- ※昼食後 自由解散

●開催風景

◆3月8日のフォーラム

急遽、会場が変更になり参加のみなさまにはご迷惑をおかけしましたが、役場の会議室をお借りすることができ、快適な環境で充実したフォーラムを開催することができました。

古賀学氏の基調講演では、目的地としての観光地は、点ではなく、地域としてとらえる必要性、誰のための観光振興であるべきかなどをお話いただき、「もの」「こと」に関する時代背景をふまえた地域経営、環境管理をおこなっていくことが、愛着の沸く地域を育て、持続可能な観光推進につながることを学びました。

開催地報告は、白川村に生まれ育った尾崎達也氏によって、「売らない、貸さない、こわさない」の住民憲章を制定し、「白川郷荻



▲113棟の合掌造りが保存されている荻町集落

町集落の自然環境を守る会」の発足から、重要伝統的建造物群保存地区に選定、世界遺産登録までの道のりを実際にかかわった当事者の貴重な体験にもとづくお話を聞くことができました。また白川村の生業としての養蚕、養蚕が合掌造り民家を生み出したこともお話いただきました。

講演のあとは、新庄市から本年秋に、国との連携で登録文化財建造物を活用した道の駅「新庄エコロジーガーデン原蚕の杜」としてオープンすることが報告されました。また日野市、南砺市からの近況活動報告をしていただきました。

◆荻町集落見学会

まだ雪の残る白川郷集落は、多くの外国人観光客があふれ、昨今の観光地事情を目の当たりにする光景がみられ、白川郷を代表する景観がみられる荻町城址展望台にあがるシャトルバスは朝から長蛇の列でした。

国の重要文化財に指定されている白川郷最大級の合掌造り民家、和田家住宅をご当主の説明で見学ののち、尾崎氏のご案内で集落を歩いて田島家養蚕展示館へ。展示館館長の三島敏樹さんに解説していただきました。旧田島家は、現在地に移築され、2015(平成27)年から「養蚕展示館」として公開され、白川村が養蚕業で栄え、良質な生糸を産出してきた歴史を伝えています。

合掌造りの食事処にて昼食をとり、昨今の観光地が抱えるインパウンドの実態体験とともに、絹遺産である合掌造り集落の充実した見学会が終了になりました。



合掌造りの保存について講演する尾崎氏



ご挨拶する白川村の宮丸教育長



参加者みんなで笑顔で記念撮影

— 第47回 —

「J.H.モーガン建築の魅力」

J.H.モーガンは、東京駅前の丸の内ビルをはじめ、横浜市内でも多くの建物を設計しました。山手西洋館ベリック・ホール、111番館、山手聖公会、外国人墓地正門などが今でも残されています。中でも「旧根岸競馬場一等馬見所」は傑作で、令和6年度に横浜市認定歴史的建造物に認定されました。これ機にモーガン建築に光を当て、後世に伝え残す方を推進して参る覚悟でセミナーを開催いたします。皆さまのご参加をお待ちいたしております

●内容

講演：水沼淑子（関東学院大学名誉教授・当公益社団専門委員）
シンポジウム：「モーガン建築を後世に伝え残すために」

*同時開催 モーガン建築の写真展

●日時：9月28日(日) 14:00～

●場所：ベリック・ホール

▼会場のベリック・ホール



●定員：50名（事前申込制）

●参加費：500円（ヨコハマヘリテイジサポート会員は300円）

●申込方法

8月25日(金)10時からベリック・ホールにて電話または来館で受付 Tel. 045-663-5685

※定員に達した時点で締め切りとさせていただきます。

- ・主催：公益社団法人 横浜歴史資産調査会
- ・後援：横浜市都市整備局・公益財団法人 横浜市緑の協会
- ・協力：旧モーガン邸を守る会



▶モーガンの傑作と言われている旧根岸競馬場一等馬見所



▶再建を目指しているモーガンの自邸

日本鉄道保存協会 2025年度総会・見学会 10月4日(土)・5日(日)

場所：青森県・七戸町

2025年度の総会・見学会は、青森県七戸町で開催予定です。かつて七戸町と野辺地町の20.9kmを南部縦貫鉄道が結んでいました。鉄道営業は1997(平成9)年に休止、2002(平成14)年に廃止になりました。現在は、会員の一般社団法人南部縦貫レールバス愛好会が旧七戸町駅構内で保存活動を行っています。愛好会の活動を支援してくださっている七戸町の多大なるご協力を得て、総会・講演会と愛好会が保存するレールバスはじめ車両たち、駅構内の見学会を開催します。

●日程：10月4日(土)・5日(日)

●総会宿泊：七戸町ふれあいセンター(七戸中央公園内)



▲保存されているレールバス。キハ101とキハ102

最寄り駅は東北新幹線七戸十和田駅。駅集合の予定です。詳細につきましては、8月上旬頃にお知らせの予定です。多くのみなさまのご参加をお待ちしています。



▲PC枕木化が完了した旧七戸町駅構内

受付中!

■歴史を生かしたまちづくり相談室

老朽化、修理費、固定資産税、相続税など歴史的建造物に係るご相談を受付けています。ご相談は、ヨコハマヘリテイジ事務局まで。
TEL・FAX 045-651-1730 E-MAIL yh-info@yokohama-heritage.or.jp

■『ヨコハマヘリテイジスタイル 2025年夏号』 ■発行/2025年7月 公益社団法人横浜歴史資産調査会

■事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405

TEL・FAX/045-651-1730 E-MAIL/ yh-info@yokohama-heritage.or.jp

ホームページ <http://www.yokohama-heritage.or.jp/>